

水島協同病院は差額ベッド料はいただいております

地域連携・患者サポートセンターがゆく！ 「あさがおギャラリー」を訪ねてみました

みなさんは水島商店街にある、みずしま財団の「みずしま資料交流館（愛称あさがおギャラリー）」をご存じですか。2023年より、倉敷市社会福祉協議会主催のささえあい活動である、「くらしき互近助（ごきんじょ）パントリープロジェクト※」に参加し始めたとのことで、無料・低額診療制度や無料健康相談会の案内も兼ねて、当院地域連携・患者サポートセンターの八谷ソーシャルワーカーと西村の2人で訪問させていただきました。

あさがおギャラリーには、倉敷公害訴訟の資料を中心に、水島の歴史を知る貴重な本や写真パネルが展示されており、大きな机もあります。（資料閲覧の場合、事前連絡要）スタッフのお2人と話していると、「野菜あるかなあ？」と、近所のかたが立ち寄られていました。

地域の新たな取り組みを見習い、何かあれば相談いただける地域密着多機能病院として、地域との連携をすすめていきたいと思ひます。

（地域連携企画室 西村真弓）

※くらしき互近助パントリープロジェクトとは…暮らしのすぐそばに食材と生活雑貨、相談できる人を配置して、互いに近所で助け合う、新しい見守り・支え合いのしくみのこと（社協HPより引用）



昨年9月、あさがおギャラリーにて（左が八谷ソーシャルワーカー）



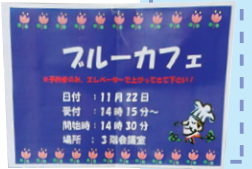
オープニングのようす

糖尿病のシンボルカラーであるブルーと、カフェのようになりラックスした雰囲気の中にしたいと思ひ、この名称としました。糖尿病教育入院担当の里見医師を始め、薬剤師、栄養士、作業療法士、病棟看護師、外来保健師、外来事務がスタッフとして参加し、ラジオ体操やすご



気合いの入ったスタッフお手製すごろく

11/22、糖尿病患者同士の交流をとおして自己啓発に役立てることを目的に、糖尿病学習イベント「ブルーカフェ」を開催しました。



ろくゲーム、チーム戦でクイズを行いました。終始和気あいあいと楽しく糖尿病学習ができたかと思ひます。今回のイベントを皮切りに活発な交流が今後も開催できたらと思ひています。次回開催時は、より多くの患者さんにご参加いただきたいです。（看護1科 大崎泰葉）

シリーズ 拝啓、組合員さんへ
～みずきょうの各部署から～

地域連携・患者サポートセンター



センター長の吉井副院長

患者さん・ご家族をサポートしたい

地域連携・患者サポートセンターは、「地域連携企画室」「医療福祉相談室」「入退院支援室」を統合した部署で、外来受診、また入院から退院、そして、自宅退院や転院、在宅調整などシームレスなサービスを提供するため多職種で協力し合い、さまざまな相談や業務を行っています。職種は、看護師4名、社会福祉士6名、事務3名です。それぞれの専門分野の知識や経験を活かしながら、入院や通院に伴う様々な問題や不安の相談、医療保険・福祉・介護保険などの制度の相談、退院後の生活につなげる支援、受診予約の手配、他の医療機関との医療連携の窓口として、にぎやかに業務に携わっています。病気や加齢などにより、生活の支援や介護が必要な状態になっても、住み慣れた



サポートセンタースタッフの面々

た地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援など各機関と連携を図り、サポートしていきます。（副センター長 安藤裕子）

虹の意見箱

みなさまから
貴重な声を
いただいています



（ご要望）
投函場所…

病院1階

検診でエコーをうけました。上衣をとってそのままベッドに寝るので、タオルを敷いてほしい

です。

【お答え】

この度は、当院の健診を受診していただきありがとうございます。エコー検査時に休んで頂くベッドについてですが、感染対策のためお一人検査

が終了する度に除菌シートで拭拭しており、清潔を保っております。そのため、シーツやタオルは敷いていませんが、ベッドが直接肌に触れるのが気になる方はタオルを敷いて検査いたします。遠慮なく担当者へお声かけ下さい。これからも安心して快適に検査をうけていただけます。貴重なご意見ありがとうございました。

臨床検査科